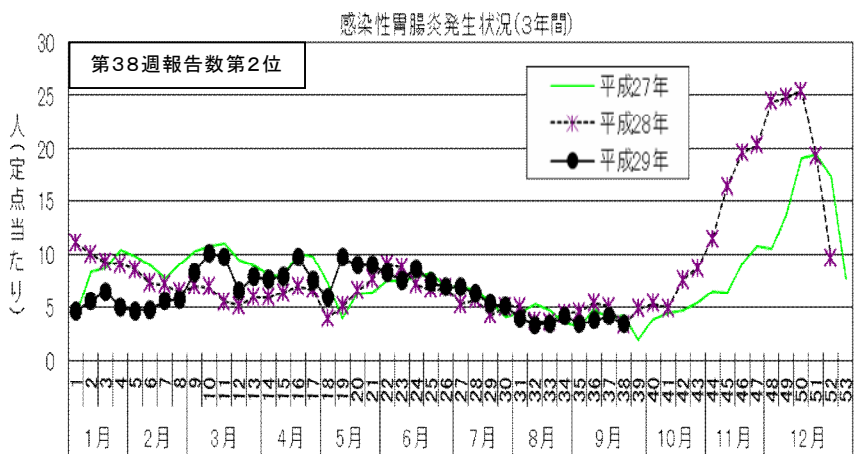
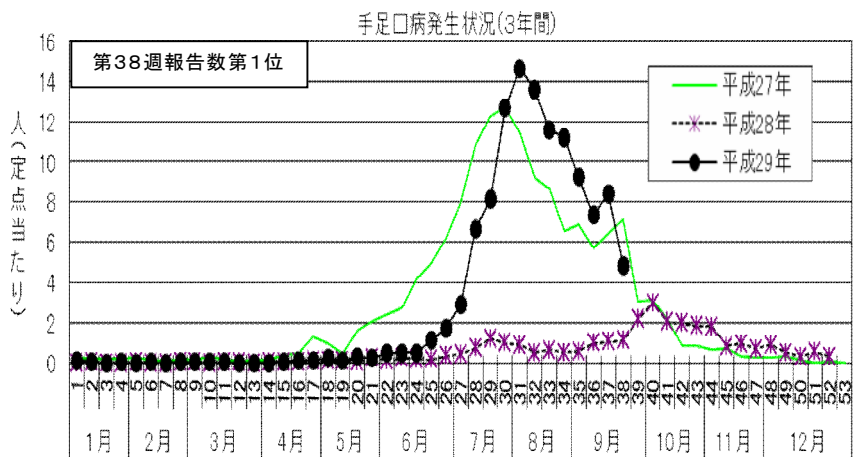


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年9月18日（月）～平成29年9月24日（日）〔平成29年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4.86人と前週（8.43人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.46人と前週（4.14人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.56人と前週（2.00人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



知っていますか？～流行性耳下腺炎と難聴～

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、ムンプスウイルスを原因とし、両側又は片側の耳の下の腫れや痛みを特徴とする全身性感染症です。通常は1～2週間で軽快しますが、無菌性髄膜炎や難聴等の合併症を引き起こすこともあります。

特に難聴については、日本耳鼻咽喉科学会から2015年～2016年にかけて発症したムンプス難聴の大規模全国調査結果について報告があり、メディア等でも大きく取り上げられました。調査結果によると、2年間で少なくとも348人が難聴になり、300人近くの方に後遺症（両耳難聴は16例）が残っていることが明らかになりました。

現在、おたふくかぜワクチンは任意接種ですが、自然感染による合併症発生率を下げる事が明らかになっており、ワクチン接種が推奨されています。

（参考）自然感染の症状とワクチンによる副反応

臨床症状	自然感染(%)	ワクチン(%)
腺組織		
耳下腺腫脹	60～70	3
顎下腺腫脹	10	0.5
睾丸炎	20～40	ほとんどなし
卵巣炎	5	ほとんどなし
肺炎	4	ほとんどなし
神経組織		
髄液細胞増多症	50	不明
無菌性髄膜炎	1～10	0.01～0.1
ムンプス脳炎	0.02～0.3	0.0004
ムンプス難聴	0.01～0.5	不明
その他		
腎機能低下	30	不明
心電図異常	5～15	不明

全国における流行性耳下腺炎発生状況
 -1982年第1週～2016年第35週-



(IASR Vol. 37 p.185-186: 2016年10月号から抜粋) (国立感染症研究所 おたふくかぜワクチンに関するファクトシートから抜粋)